

国立病院機構 西新潟中央病院

— 地域とともに、日々とともに。「今」を伝えるもの語り —

Care + Nishinigata Chuo Hospital 2023 October



国立病院機構 西新潟中央病院

〒950-2085 新潟県新潟市西区真砂1丁目14番1号 TEL.025-265-3171 FAX.025-231-2831

<https://nishinigata.hosp.go.jp/>



message

西新潟中央病院（チーム西新潟）の強み — 呼吸器と脳神経の医療 —

当院の建つ新潟市西区真砂の地に、医療機関が開設されたのは
1941（昭和16）年です。結核療養所としての年月を経て、
1995（平成7）年、現在の西新潟中央病院に生まれ変わりました。
結核罹患者が激減し、地域で求められる医療内容が大きく変貌したためです。
時代や地域の特性によって、人々が必要とする医療は移り変わります。
当院もそれに対応し、役割を変化させてきました。
時が流れて令和の今日、チーム西新潟がみなさまから
期待されていることは何でしょうか？
私は「当院の強みである呼吸器・脳神経分野の医療を通して、
社会（地域・日本・世界）に大きく貢献する」ことだと考えます。
専門性の高い医療を自分たちの得意分野で実践し、
患者さんやご家族の笑顔に出会うことが、私たちの何よりの願いです。

※「チーム西新潟」：医師、看護師はじめ当院で働くすべての職員は、ひとりひとりが思う存分
その専門性を発揮し、質の高い医療を患者さんにお届けするチームです。

国立病院機構 西新潟中央病院
病院長

おおだいら てつろう
大平 徹郎



西新潟中央病院

かれん

vol.10

Care+Nishiniigata Chuo Hospital
2023 October

かれん（Care+N）とは、ケア（いたわる心）と、
西新潟のNを組み合わせでできた名前です。
優しさと親しみを込めて呼んでもらえるように。
そんな思いから生まれました。

contents

03

Care+N introduction

神経小児科のチーム医療

05

Care+N specialist

療育指導室・保育士

佐藤 香

07

Care+N letters

〔タイからの実習生たちがリハビリを研修〕

〔看護師の仕事にチャレンジ！高校生一日看護師体験〕

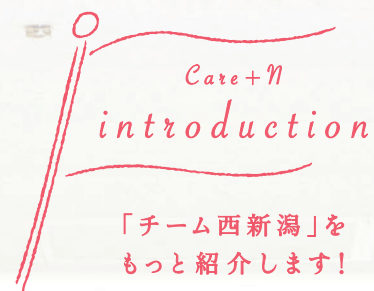
〔「看護の日」にちなんだイベントを開催〕

〔涼を楽しむイベント アイスレクリエーション〕

〔季節の風物詩 恒例のラベンダー摘み〕

09

information



専門医が揃う当院の強みを活かして—— 神経小児科のチーム医療

小児神経疾患の専門病院であり、国のてんかん地域診療連携体制整備事業に

基づき新潟県が指定した「てんかん支援拠点病院」でもある当院では、

現在7名の神経小児科医が診療に当たっています。

難病の子どもたちを支え、ご家族との信頼を築きながら、

チーム一丸となって取り組む神経小児科のドクターにお話を伺いました。



小児神経疾患を専門とする小児科医がこれほど多く在籍する病院は、県内では当院だけ。ドクター7名がそれぞれのスキルを持ち寄り、コミュニケーションをとりながら治療を進めています。左から遠山潤 副院長、藤井仁美 医師、三浦雅樹 医長、小林悠 医長、山田慧 医師、放上萌美 医師、関衛順 医師。



多職種で力を合わせ、専門病院にできる最大限の診療を。

他の病院では特定できない診断を明らかにし、薬物治療やリハビリ、特殊治療など、症状に応じたさまざまな治療を行えるのが私たちの強みです。多職種連携を大切にしたい、質の高い医療をめざしています。

副院長 遠山 潤（とおやま じゅん）

国立病院機構 西新潟中央病院の 神経小児科の特徴を教えてください。

当院には、慢性の神経難病、難治性てんかんなどの患者さんが数多く入院されています。神経小児科をはじめ、重症心身障害児者病棟や通所事業の「あかしあ」ではたくさんのお子さんたちを受け入れており、その多くは、幼い頃から大人になるまで長期にわたって入院されていたり、退院した方でも検査入院やショートステイでたびたび病院に来られたりする、長いおつきあいになる患者さんがほとんどです。したがって、小児神経分野の診察・治療を専門に行うとともに「長い間お子さんたちの成長を見守ることができる」という点が、当院の特徴のひとつとして挙げられると思います。



神経小児科チームでは、 普段どんな活動をしていますか？

私たち神経小児科の医師は、小児科病棟と重症心身障害児者病棟を担当しています。週3回ほどの全体ミーティングをはじめ、情報共有の機会を頻繁に設けています。

てんかんの検討会では、脳神経外科・脳神経内科・てんかん科と一緒にいきます。

また週に1回、患者さんごとのより入念な検討会も行っており、メンバー全員で意見を出し合っており、おひとりおひとりの診断・治療方針を共有し、症状に合わせたケア方法を提案しています。

神経小児科で行うチーム医療には どんなメリットがありますか？

チームで診ることの良さは、第一に、治療方針をみんなで決められることです。特に当院は、簡単に診断がつかないような難しい病気の患者さんも多く、複数の医師がさまざまな意見を出し合うことで、それぞれの患者さんに合わせた最適な治療を提供することができます。神経小児科チームのメンバーは現在7名。看護師のほかにも、リハビリを担当する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、食事療法を相談できる栄養士、人工呼吸

器などを扱う臨床工学技士、お子さんの心に上手に寄り添う児童指導員と保育士、おうちでのケアをサポートするケースワーカーなど、多職種で取り組んでいます。これらの連携なくしては、決して成り立たないこと。みなさんの力を非常に頼りにしています。



チームで大切にしていること、 めざしていることは？

現代の医療は日々進歩しており、いろんな知識をいち早く吸収する必要があります。そこをお互い補いながら、確実な判断ができるように診療に当たりたいと思っています。私たちの目標は、小児神経の専門医が多く在籍している専門病院として、より良い医療を提供したいということです。それぞれの医師の得意分野と知識を集結させて、県内外はもとより、海外からいらっしゃる患者さんのためにも頑張っていきたい。そんな責任を感じています。

お子さんをお預かりすることで、 どんな対応を心がけていますか？

患者さんであるお子さん本人はもちろんですが、ご家族とのコミュニケーションがとても大事です。特に重症の医療的ケアを要するお子さんも多く、入院という特別な環境下での生活を、ご家族は大変不安に思われることと思います。だからこそ、病状や治療の状況はできるだけ丁寧に説明するようにしています。また、逆にご家族にしかわからないお子さんの表情や訴えがあるので、ひとつひとつの聞き取りもしっかりと行っています。双方の信頼関係が結ばれていることを、何よりも大切に考えています。お子さんのてんかんや、発達行動の面で気になる症状がある方はぜひご相談ください。各種検査も行っていますので、まずは一度、お気軽にお越しいただけたらと思います。



Care + N specialist

Report 07

たくさん子どもたちが入院している小児科病棟で、
それぞれに応じたメンタルケアや日常生活のサポートを行っている
病棟保育士。日頃から子どもとはもちろん、ご家族とも密に
コミュニケーションをとりつつ、信頼関係を築いています。
ほっと癒される人柄に、子どもを想う強い信念がありました。

子どもたちの 笑顔のために。

療育指導室・保育士

佐藤 香

さとう

かおり



かれん スペシャリストリポート

病棟保育士の役割は、発達と状態に合わせた遊びの提供、検査や手術に対する心の準備のお手伝い（プレパレーション）など、子どもたちとそのご家族の入院中の不安を軽減し、安心できる時間を提供することです。ひとりひとりが持つ特性や疾患、それに対して行う検査や治療についても理解して支援したいので、病棟と情報を共有し、わからないことは確認するようにしています。また、6病棟はてんかんセンターの役割も担っているため、てんかんの院内認定専門医療者資格を取得しました。

病気を持つ子どもたちとの接し方や支援に今でも迷うことはありますが、入院をがんばる子どもたちやご家族の姿が励みとなって、病棟保育士としての役割を果たすことに自覚を持つことができました。保育士ができることはほんの些細なことですが、医師や看護師さんと連携を図って、「子どもと家族の安心と笑顔」のため、これからも寄り添っていきたいと思います。

子どもたちの疾患・特性を正しく把握し、いつも優しい笑顔で。

当院では佐藤保育士のほか、重症心身障害児者の入所に携わる5名、通所事業「あかしあ」に携わる4名の、合計10名の保育士が配置されています。療育指導室は保育士と児童指導員で構成される福祉職ですが、ひとりで病棟を受け持つ佐藤保育士は、医師や看護師と協調しながらさまざまな業務をこなしています。多忙な毎日ですが、明るく柔らかな表情から「子どもたちの入院生活を少しでも楽しいものに」という思いが伝わってきます。

療育指導室長 浅妻 濃（あさつまみのり）



おしえてください！その技術！

Job description

病棟保育士の仕事とは？

01 看護師さんとの連携を密にして いつも子どもたちを見守っています。

病棟に常時いることで、リアルタイムで子どもたちの情報を共有することができます。カンファレンスにもいつでも参加できる、看護師さんとの連携が図りやすい環境です。



02 子どもと1対1で向き合い、安心して 過ごせる環境づくりに努めています。

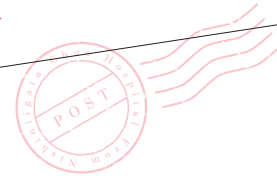
どんなときも、子どもたちの安全安楽が最優先。子どもの状態に合わせた保育活動を心がけています。さらに、お誕生日や季節の行事の際には楽しさを感じてもらえる工夫もしています。



03 療育指導室のスタッフで連携し、 情報共有しています。

小児科病棟の担当は私ひとりですが、より良い支援になるよう、短期入院の子どもたちの様子や注意点など、児童指導員と情報共有することを心がけています。



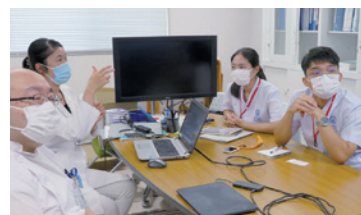


topics 01

タイからの実習生たちが リハビリを研修

タイ・マヒドン大学で理学療法を学ぶ学生2名が5月に来院し、5日間の臨床実習を行いました。リハビリや検査の見学では、翻訳機を通して積極的に職員に質問するなど、真剣なまなざしで実習に臨む様子が見られました。

実習生
受け入れは
4年ぶり！



topics 02

看護師の仕事にチャレンジ！ 高校生一日看護師体験

8月、県内高校生12名が訪れ、看護業務を体験。職員指導のもと医療機器を扱ったり、院内を見学したり。看護職の魅力や医療の大切さに触れた、有意義な時間となりました。

看護の仕事って
魅力的です



topics 03

「看護の日」にちなんだ イベントを開催

毎年5月の「看護の日」にちなんだイベントを西区の商業施設で開催。血圧測定などの健康チェック、脳年齢測定、看護師・医師による健康相談など、多くのひとびとが訪れました。

おいしい
夏のおやつ
をどうぞ



本格的な夏の
始まりを告げる
行事です

topics 05

季節の風物詩 恒例のラベンダー摘み

当院のシンボルフラワーとも言えるラベンダー。毎年7月初め頃に摘み取り、外来患者さんにプレゼントしています。今年も正面玄関が素敵な香りに包まれ、たくさんの笑顔があふれました。



外来診療担当医表 [2023.10] [受付時間]8:30～11:30 [休診日]土・日曜日・祝祭日

診療科		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
呼吸器内科	午前 (予約制)	大平 微郎 (呼吸器／睡眠外来)	宮尾 浩美 (肺がん外来)	森山 寛史	宮尾 浩美 (肺がん外来)	松本 尚也 (肺がん外来)
		森山 寛史	桑原 克弘	松本 尚也 (肺がん化学療法)	桑原 克弘	木村 夕香
		木村 夕香	松山 菜穂	高橋 美帆	松山 菜穂	高橋 美帆
		松山 菜穂 (睡眠時無呼吸)		松山 菜穂 (睡眠時無呼吸)		
	午後 (予約制)		大平 微郎 (睡眠時無呼吸) (再来のみ)		松山 菜穂 (禁煙外来)	
呼吸器外科	午前	(手術日)	渡辺 健寛	(手術日)	古泉 貴久	渡辺 健寛
整形外科	午前		藤澤 純一	藤澤 純一	(手術日)	榮森 景子
小児整形外科	午後 (予約制)					榮森 景子
脳神経内科	午前	若杉 尚宏	高橋 哲哉	徳武 孝允	高橋 哲哉	長谷川 有香
	午後 (予約制)		黒羽 泰子			齋藤 奈つみ
機能脳神経外科	午前	福多 真史	(手術日)	福多 真史	増田 浩 (再来のみ)	(手術日)
		白水 洋史		伊藤 陽祐	白水 洋史 (再来のみ)	
		伊藤 陽祐				
	午後 (予約制)				太田 智慶 (再来のみ)	
てんかん科	午前 (予約制)		長谷川 直哉 (新患のみ)	長谷川 直哉 (再来のみ)	長谷川 直哉 (再来のみ)	長谷川 直哉 (再来のみ)
	午後 (予約制)			齋藤 奈つみ (再来のみ)	長谷川 直哉 (再来のみ)	
神経小児科	午前	三浦 雅樹 (再来のみ)	遠山 潤 (再来のみ)	関 衛順 (再来のみ)	遠山 潤	小林 悠
		山田 慧 (再来のみ)	小林 悠 (再来のみ)		三浦 雅樹	放上 萌美
			藤井 仁美 (再来のみ)			山田 慧
	午後 (予約制)		遠山 潤 (再来のみ)	放上 萌美 (再来のみ)	遠山 潤 (再来のみ)	
難病リハビリ	9:00～15:00		関 衛順 (予防接種)	藤井 仁美 (予防接種)	関 衛順 (予防接種)	山田 慧 (予防接種)
難病リハビリ	9:00～15:00	小林 彩夏	難病リハビリ 担当医	大学医／黒羽	若杉 尚宏	難病リハビリ 担当医
リハビリテーション科	第3金曜 午後					木村 慎二

外来受診について

外来診療は初診・再診を問わず、原則として予約制です。事前に予約をお取りください。

予約専用窓口／TEL.025-265-2299

□翌日以降の予約(平日13:00～17:00) □当日の診療希望(平日9:00～11:00)

※予約なく紹介状をお持ちになりご来院されても、外来の状況で当日受診ができない場合があります。

【診療日程】

□初診・再診受付／8:30～11:30 ※救急の場合は、この限りではありません。

□休診日／土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始

TEL.025-265-3171(代表)へお電話いただくと、自動音声でご案内しております。

交通のご案内

【バス】

A.有明線

「国立西新潟中央病院前」下車徒歩約2分

B.坂井輪コミュニティバス

「国立西新潟中央病院前」下車徒歩約2分

C.西小針線(本数が多い)

「小針十字路」下車徒歩約10分

【JR】

越後線「小針駅」からタクシー3分

【車】

新潟バイパス「黒埼I.C.」から15分



epilogue



表紙の話：治療・予防の可能性をあらゆる方向から追求。褥瘡対策チーム

「褥瘡(じょくそう)」とは、体の部位が長時間圧迫されることによる皮膚の損傷(床ずれなど)のこと。褥瘡が起きている患者さんのケアはもちろん、褥瘡自体を発生させないことを目標に、多職種が集まり、さまざまなアプローチを考えています。患者さんの年齢や栄養状態、背景を考慮し、看護の関わり方からよく話し合うことを大切にしています。

メンバーは左から、俵木千恵 看護師長、大竹えり子 看護師、藤澤純一 整形外科医長、幡本瑞季 看護師、山本輝尚 薬剤師、佐藤由美 看護師、富樫新生 看護師、加藤留美 副看護師長、松本健太 主任栄養士、深澤真一 看護師長、零伸幸 副看護部長です。

かれん 2023年10月 vol.10 Care+Mishiniigata Chuo Hospital 2023 October

〈発行人〉病院長 大平 微郎 〈編集人〉深井 和久 服部 真一 高橋 篤史